

# 大学院受験経験共有

亞細亞友之会外語学院  
院進 A クラス：黎任賢

卒業にあたり、私の理工科大学院受験体験を共有したいと思います。

まず私の経歴を簡単に紹介させていただきます。私は合肥理工大学を卒業し、2022年4月に亞細亞友之会外語学院で日本語を学ぶために来日しました。国立北陸大学院大学先端科学技術研究科、先端科学技術研究科に合格しました。

まずは言語についてお話ししたいと思います。日本語学校に入学する前は自宅で50音から始め、半年ほど一人で独学しました。感染症の影響でJLPT試験は受けられずに来日しました。亞細亞友之会外語学院で3ヶ月間勉強した後、7月にJLPT試験を受け、N1に合格しました。福原先生、大澤先生には本当に感謝しています。合格するには、先生が与えられた課題を一つ一つこなしていき、試験前に過去問をさらに数セット解くだけで十分です。学校の先生方からはたくさんの助けを頂きました。受験だけではなく、会話や交流においての日本語能力向上も実感しました。実際、理工系の学生の場合、N2があれば、ほとんどの学校の出願要件を満たすことができます。英語にも真剣に取り組む必要があり、TOEFLやTOEICを受けることをお勧めします。英語に自信のある方はTOEFLテストを受けてください。一時的なスコアが必要な方や英語がそれほど得意ではない方はTOEICテストを受験することもできます。北陸先端科学技術大学院大学の出願条件には制限はありませんが、面接を念頭に置いたほうがいいです。（面接は日本語または英語のみです）。一般的にほとんどの学校はTOEICまたはTOEFLスコアを必要とします。できるだけ早く準備することをお勧めします。可能であれば、中国で日本語と英語の語学能力証明を取ってください。

次は出願についてです。一般的に、理工系の出願は自分で教授と連絡を取り、教授の許可を得た上で受験ができます。もちろん、学校によっては若干異なる場合もありますので、募集要項をよく読む必要があります。出願の流れについて簡単に説明しましょう。まずは自分で研究計画書を書くことです。この研究計画書はある程度革新的なものでなければならず、その書き方については大澤先生に教えていただきました。アイディアや専攻の教科書なども教えていただきました。最終的に、他の先生にも文法や言葉遣いなどをなおしていただきました。研究計画書が完成したら、教授に連絡します。一般的に、研究内容は教授の研究室の

主な研究分野と関連しているか、一致する必要があります。教授の指導を受けてから出願できます。教授との連絡を個人的な経験から言うと、私は情報関連分野に応募したので、教授はプログラミングの経験があるかどうか、革新的な点は何か、志願理由などを尋ねました。それから研究計画に関するご提案をさせていただきます。教授からの質問には正直に答えてください。教授によっては、ビデオ会議の形式で、または長時間の面接（日本語または英語）を行う機会を与える場合もあります。全体的に非常にリラックスした雰囲気で、学生を困らせる事はないので、緊張しないでください。教授は学生の状況を理解したいだけです。もし教授からメールの返信がなかった場合、入試課に連絡すると、当日返信してくれます。少なくとも出願する 1 ヶ月前には連絡することをお勧めします。人気のある専攻は、3 カ月前に連絡する必要がある場合もあります。

次に試験対策についてお話しします。一般的に理工系で筆記試験がある場合は、数学や専門科目になりますが、具体的な内容は受験する学校の募集要項を確認する必要があります。北陸先端科学技術大学院大学の入試では筆記試験はなく、面接のみでした。ppt での発表が 7 分、質疑に 23 分かかります。時間は厳守しなければなりません。実際の試験では、各受験者に割り当てられた時間は決められており、時間になつたら延長されることなどなく、打ち切りとなります。7 分間の発表も時間制限が厳しいので、模擬発表などをしっかり行ってください。作成する PPT の内容は小論文（研究計画書）と関連のあるものがいいです。小論文とエントリーシートは教授の手元にありますので、小論文に基づいて質問が行われます。私は日本語で面接を受けました。面接試験の前に大澤先生と岩崎先生に何度も模擬面接をして頂きました。ppt の修正も模擬質問などもたくさんして頂き、本番はそれほど緊張することはなかったです。よくある質問に出会う可能性もあります。模擬面接で発表の流暢さや日本語表現等が向上します。面接に関して私が強調したいのは、新しい何かを持つことです。教授たちはイノベーションを非常に重視しています。事前に新しい専門用語などを熟知する必要があります。さまざまなレビューはもちろんできれば過去 3 年間の文献を読んで、比較的新しい課題を考え出す必要があります。

最後に、皆さんが第一志望校に合格できることを祈っています。完璧は求めず、振り返った時悔いはないと率直に言えるようにしましょう。

また、ご指導をくださった大澤先生、宮原先生、久保先生にはこの場を借りて御礼申し上げます。良い先生に出会えて、一生の幸運です。